

耐震計算書における評価温度の考え方

1. 最高使用温度と周囲環境温度の使い分け

耐震計算書における評価温度は、評価部位において内部流体、周囲環境のどちらの影響が支配的かによって、表 1 に示すように設定している。

表 1 評価温度の考え方

評価部位	例	評価に用いる温度
①内部流体の影響が支配的な部位	機器、配管本体	最高使用温度
②内部流体、周辺環境の両方の影響を受ける部位	取付ボルト、サポート類	最高使用温度、周囲環境温度※の高い側
③周囲環境の影響が支配的な部位	基礎ボルト	周囲環境温度※

※周囲環境温度が 50℃以下の場合、部位の環境耐性に問題がないものは、評価温度を 50℃としている場合がある。

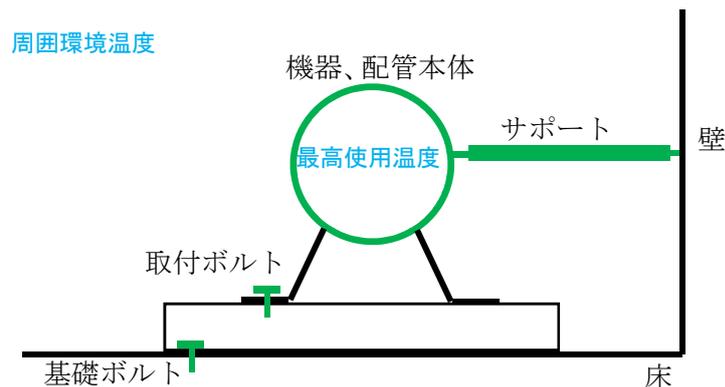


図 1 評価部位のイメージ

以上